

八ヶ岳南麓天文台 電離層モニター観測所 代表：串田嘉男

Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254

※首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までの日数は数日の可能性が高いですが、No1778前兆は29年の観測歴史上最長継続の最大に難解な変動です。No1778前兆につきましてはPHP新書「地震予報」に記したため、読者の皆様へ出版後の前兆変動の変化について続報公開しています。No1778以外の他の地震前兆につきましては本HPでは公開できません。E-mail またはFAXで配信している観測情報でのみ公開しています。本観測研究をご支援下さる皆様にNo1778以外の別の地震前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」には是非ご参加下さい。本年1/1発生の「能登半島地震M7.6」につきましても、2023年12月31日の午前11時に、M7.3±0.5の地震が1/2±2に発生する可能性「予報」を観測情報配信参加の皆様に配信し、地震発生に間に合いました。No1778に関しては解説資料の32頁～35頁を参照下さい。

※8/8発生の日向灘M7.1地震は、7/27 高知観測点の複数観測装置に前兆変動極大が綺麗に観測され（前兆規模M6.1±0.5、海深補正M0.9±3、推定規模M7.0±0.5）、前兆極大から地震発生までの日数=Tmap日数はプレート境界型の遅いパターンTmap=12日で発生致しました。またその後は一切大型地震が推定される前兆変動は観測されておりましたので、南海トラフ巨大地震発生の可能性は考えられないことを、毎日の高知観測点全観測基線波形を掲載して、日々配信の観測情報で配信公開致しました。

5/10.5 噴火型極大に対する 直前前兆 8/31 観測 → 9/23 ± 2 発生の可能性支持

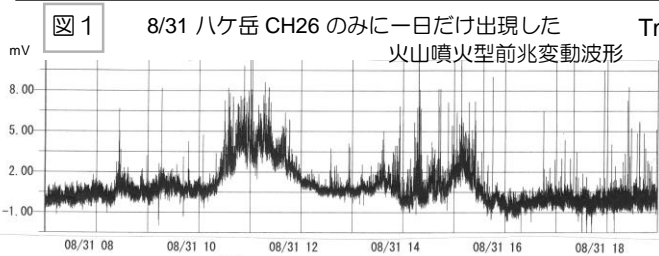


図1 8/31 八ヶ岳 CH26 のみに一日だけ出現した 火山噴火型前兆変動波形

Tmap=極大～地震発生迄の日数 Tpa=直前特異～地震発生迄の日数

5/10.5 極大～ 8/31.6 直前特異 Tmap:Tpa = 6:1 経験則

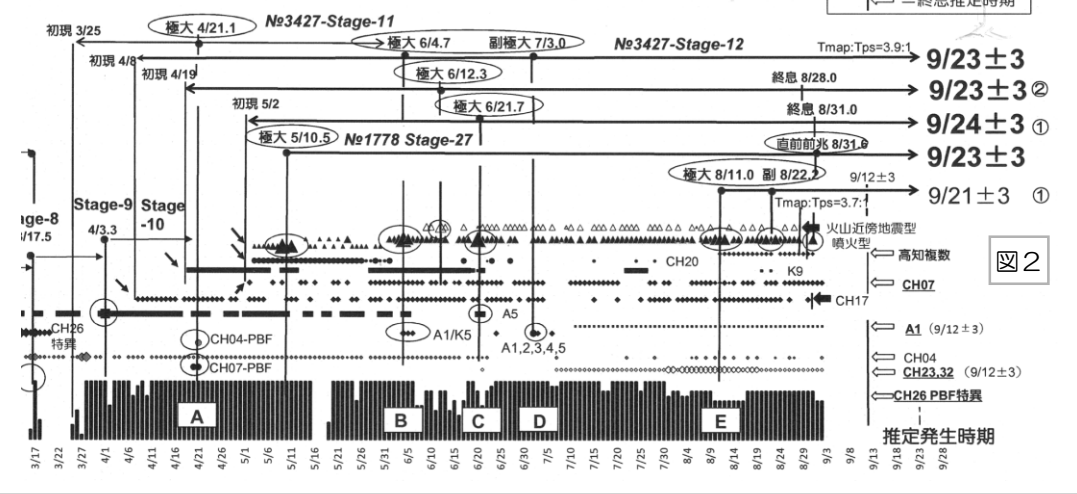
→ 9/23.2 ± 3 地震発生の可能性を示す

※直前特異は前兆変動終息後、静穏期の地震発生直前に再度短期間又は短時間出現する前兆変動ですが、特異が主であったため、直前特異と称していましたが、PBFや今回の様な噴火型等もあるため、今後は「直前前兆」と称することと致します。

日々配信の観測情報では詳細報告しておりましたが、現状は図2の様な理解となっております。9/23 ± 2 発生の可能性は変更なし。8/31、八ヶ岳のCH26のみに火山噴火型前兆変動が観測されました。9/1、9/2にも全く変動は無く、8/31の一日のみでした。他の遠隔観測点には何も同期変動がないことから、八ヶ岳に極めて近い領域内の火山近傍が示唆されます。このことから、8/31の変動はNo1778関連変動の可能性（噴火型であっても火山近傍での大型地震前兆変動認識）が考えやすい状況です。

No3427=No1778の別形態多段階ステージ前兆変動+別形態前兆

① 噴火型別形態 ② 火山近傍地震前兆別形態



噴火型前兆変動で極大が観測されたのは、本年では5/10です。

今回の噴火型は直前前兆の可能性が極めて考えやすく、対応極大は5/10の噴火型の可能性が示唆されます。この関係が正しい場合、経験則で計算しますと、図1右記のとおり、9/23 ± 3 発生の可能性となります。

9/12 ± 3に他の前兆変動が終息するか確認しないと決定は困難ですが、現状は、①8/11主極大・8/22副極大 ②5/10極大・8/31直前前兆の関係から、9/23 ± 2 発生の可能性が濃厚となりましたので報告致します。

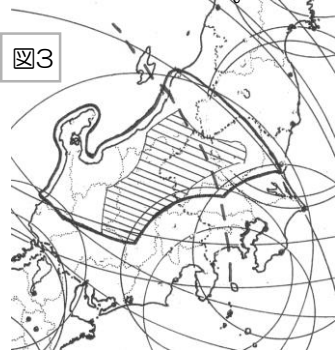


図3 点線より西側領域に震源がある可能性が考えやすい



図4 C) Copyright 2024 YSBO 八ヶ岳南麓天文台

● 推定領域：図3の太線枠内・火山近傍

● 推定規模：M8.0 ± 0.3

単発の場合 = M8.0 ± 0.3

複合の場合 = M7.4 + M7.3他等

※火山噴火型前兆変動も観測されており地震発生に伴い近隣火山噴火の可能性も否定は困難だが、出現形態が地震前兆型のため、確実に噴火するとは断定困難。

○ 推定地震種：震源浅い陸域地殻

○ 推定発生時刻：

午前09時 ± 2 or 午後06時 ± 3